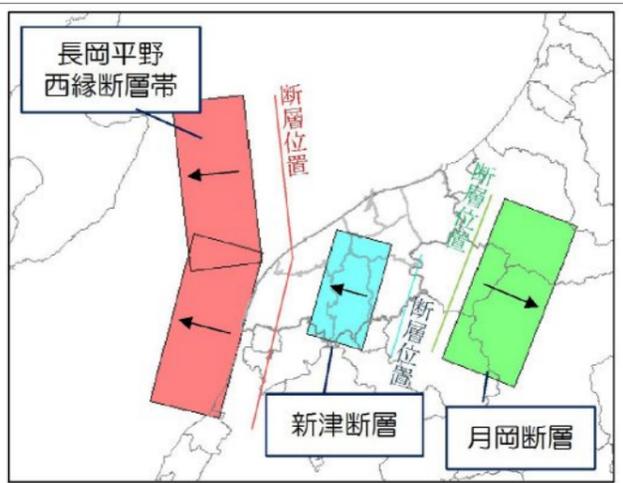


	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。
【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

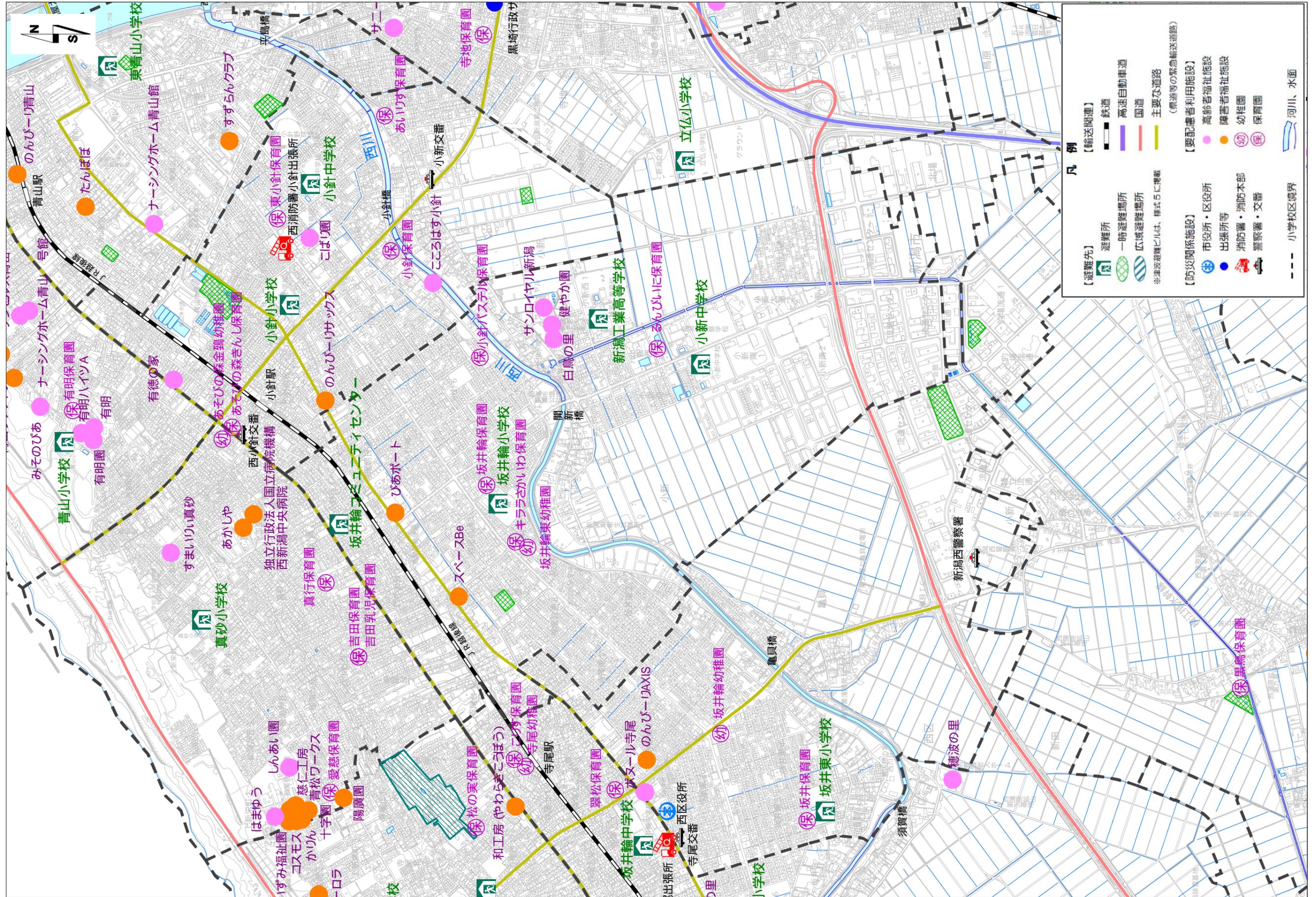
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



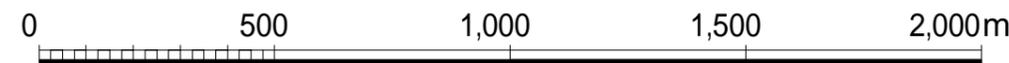
← は、断層の傾きを示しています。

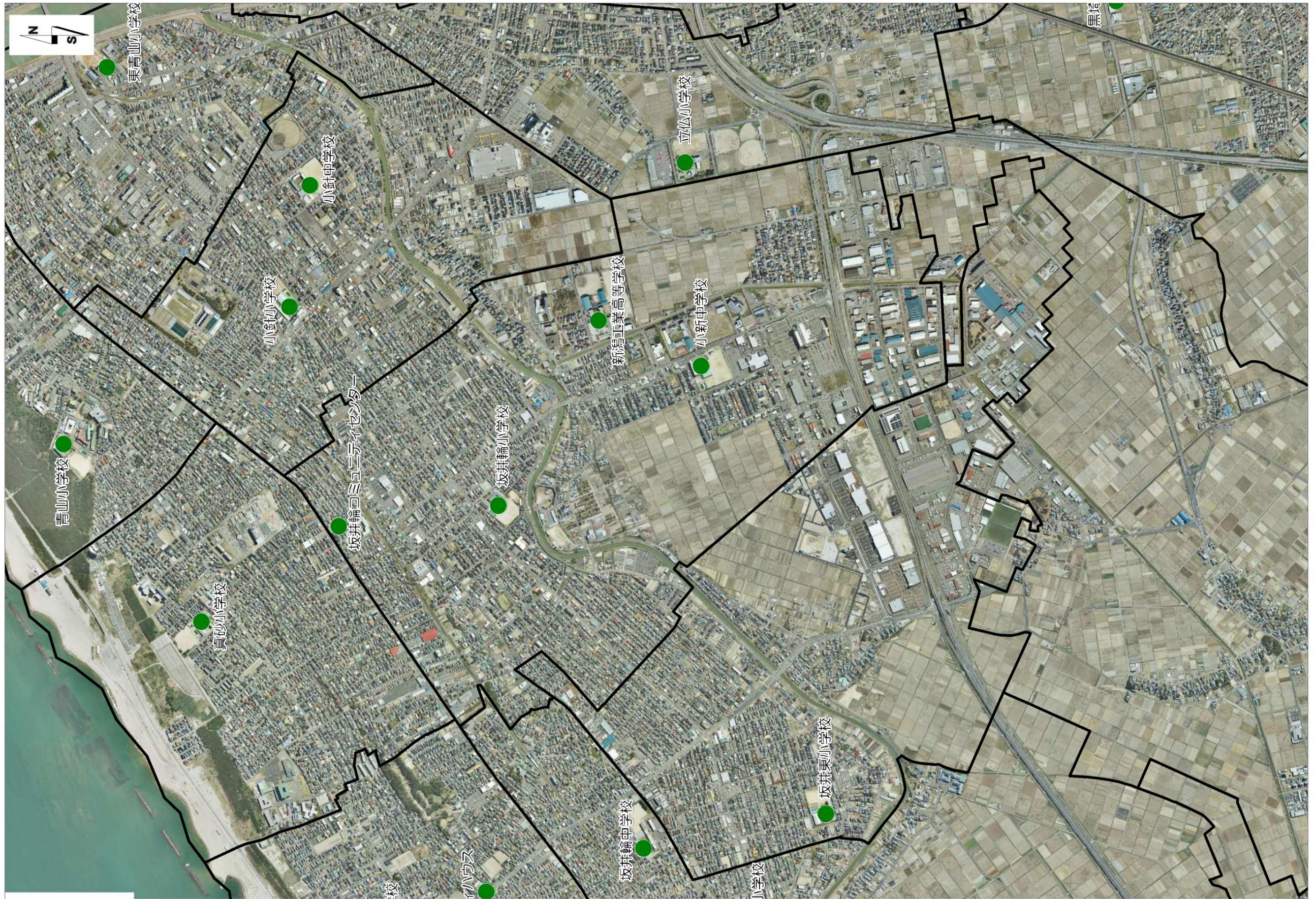
様式3 防災地図

坂井輪小学校区



【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

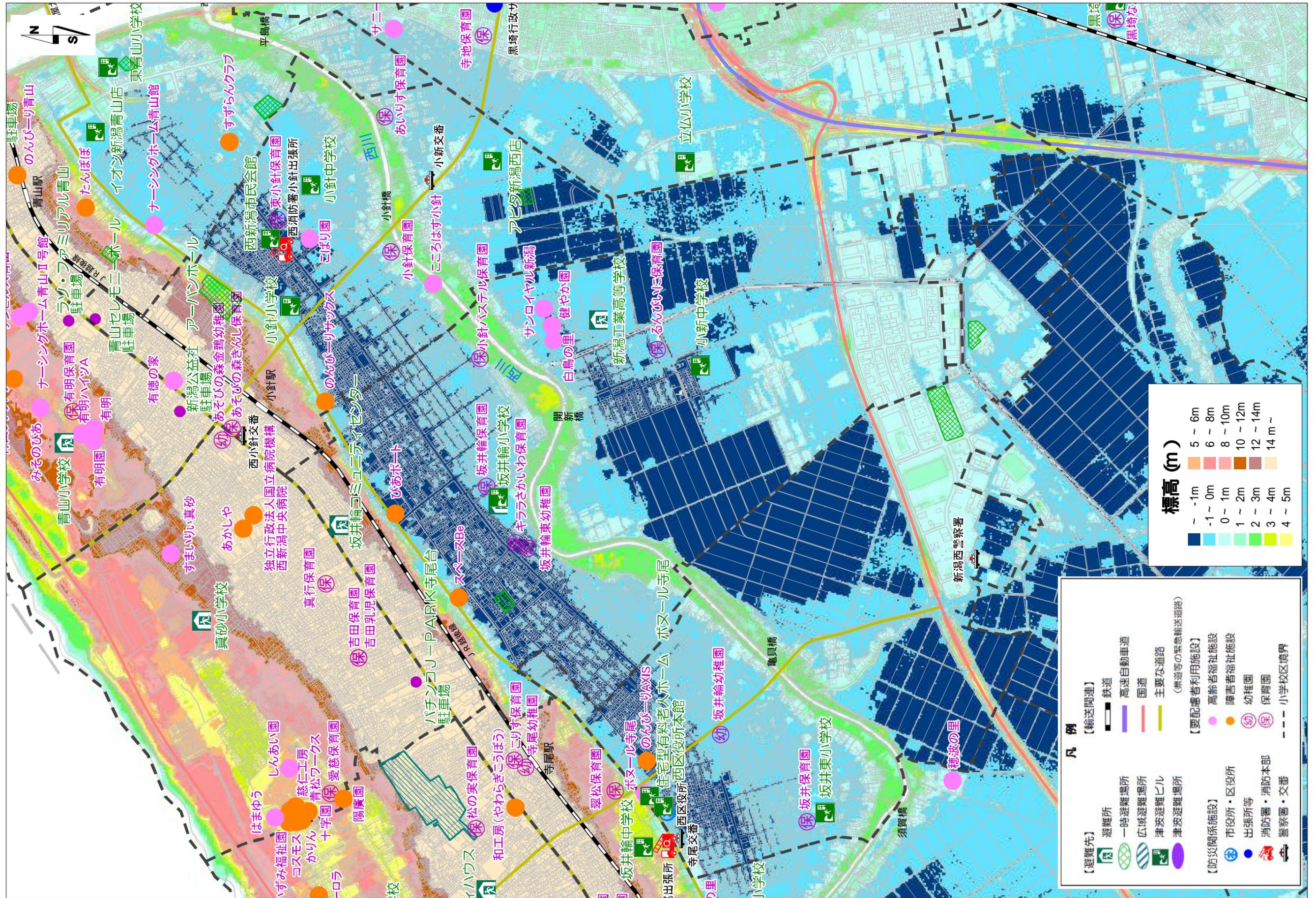




[出典] 航空写真(平成26年4月)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式5 標高分布図



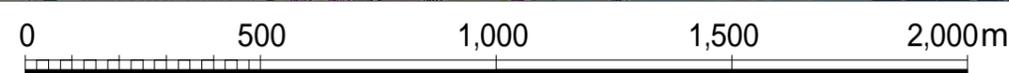
標高 (m)

~ -1m	5 ~ 6m
-1 ~ 0m	6 ~ 8m
0 ~ 1m	8 ~ 10m
1 ~ 2m	10 ~ 12m
2 ~ 3m	12 ~ 14m
3 ~ 4m	14 m ~
4 ~ 5m	

凡例

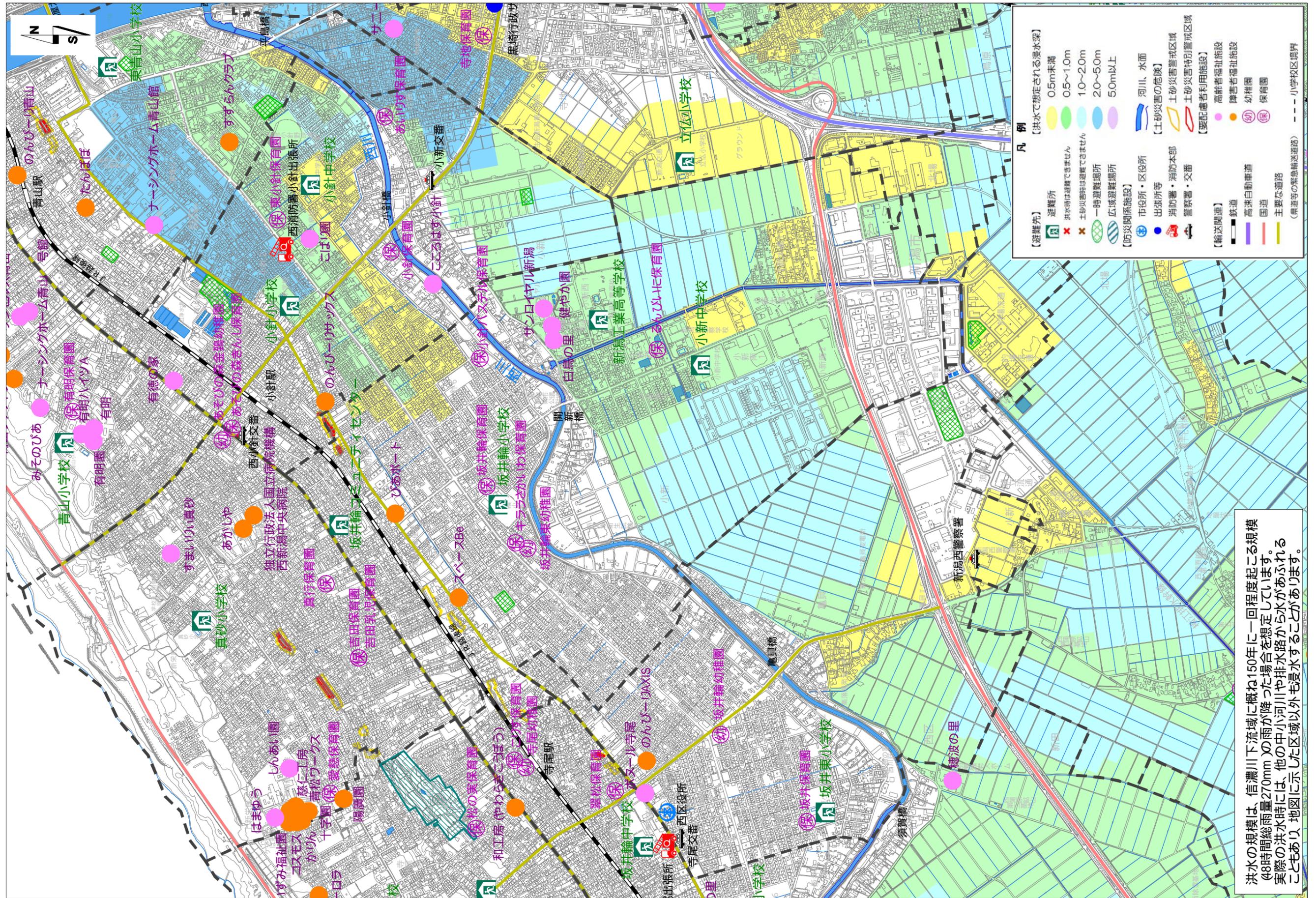
【避難先】	【輸送関連】
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
津波避難ビル	主要な道路
津波避難場所	(県道等の緊急輸送道路)
【防災関係施設】	【要配慮者利用施設】
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
	小学校区境界

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

坂井輪小学校区

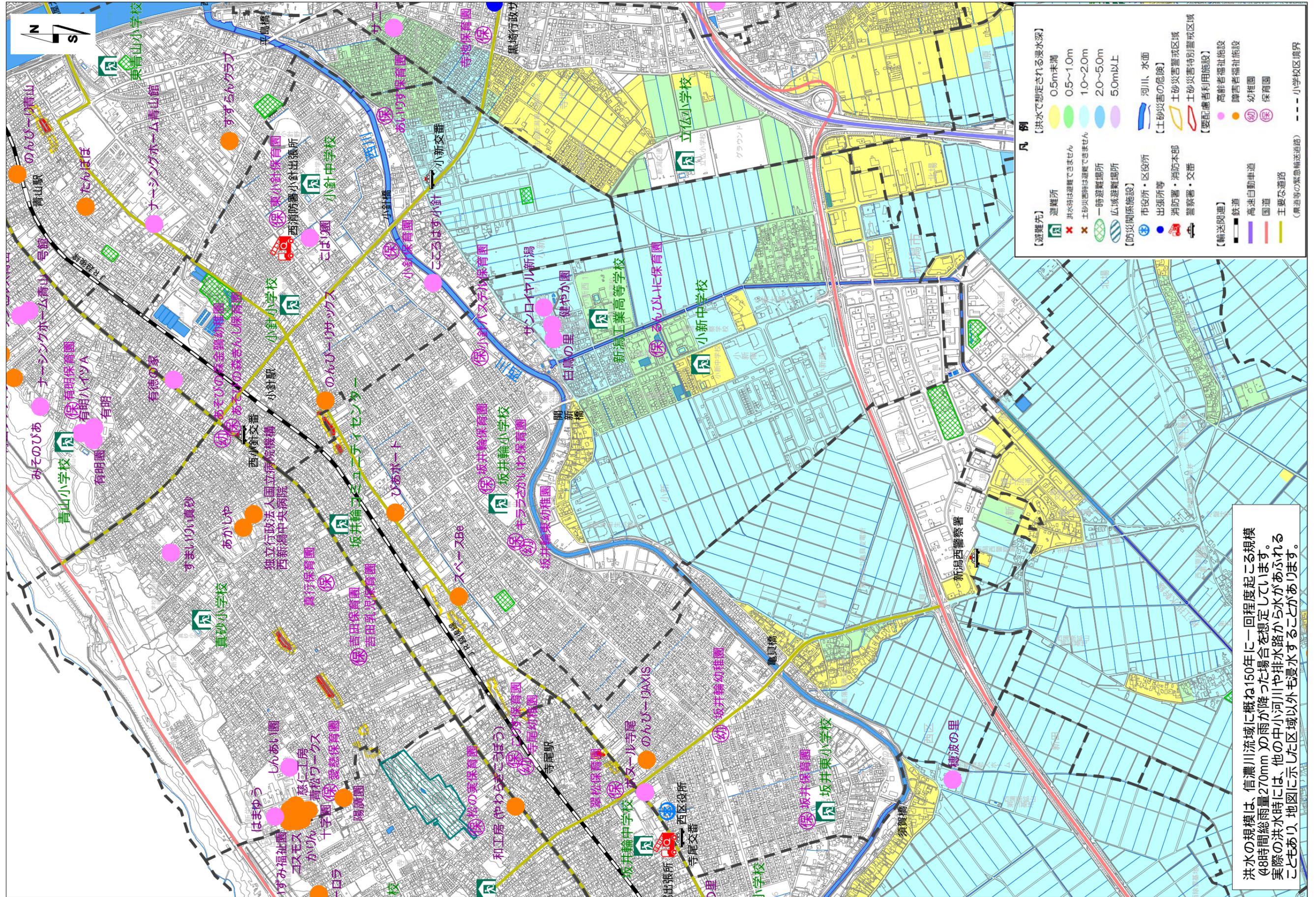


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

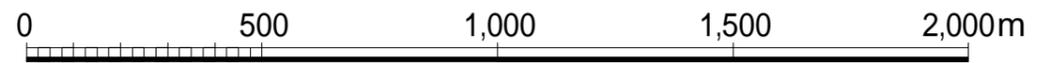
様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（中ノ口川）

坂井輪小学校区



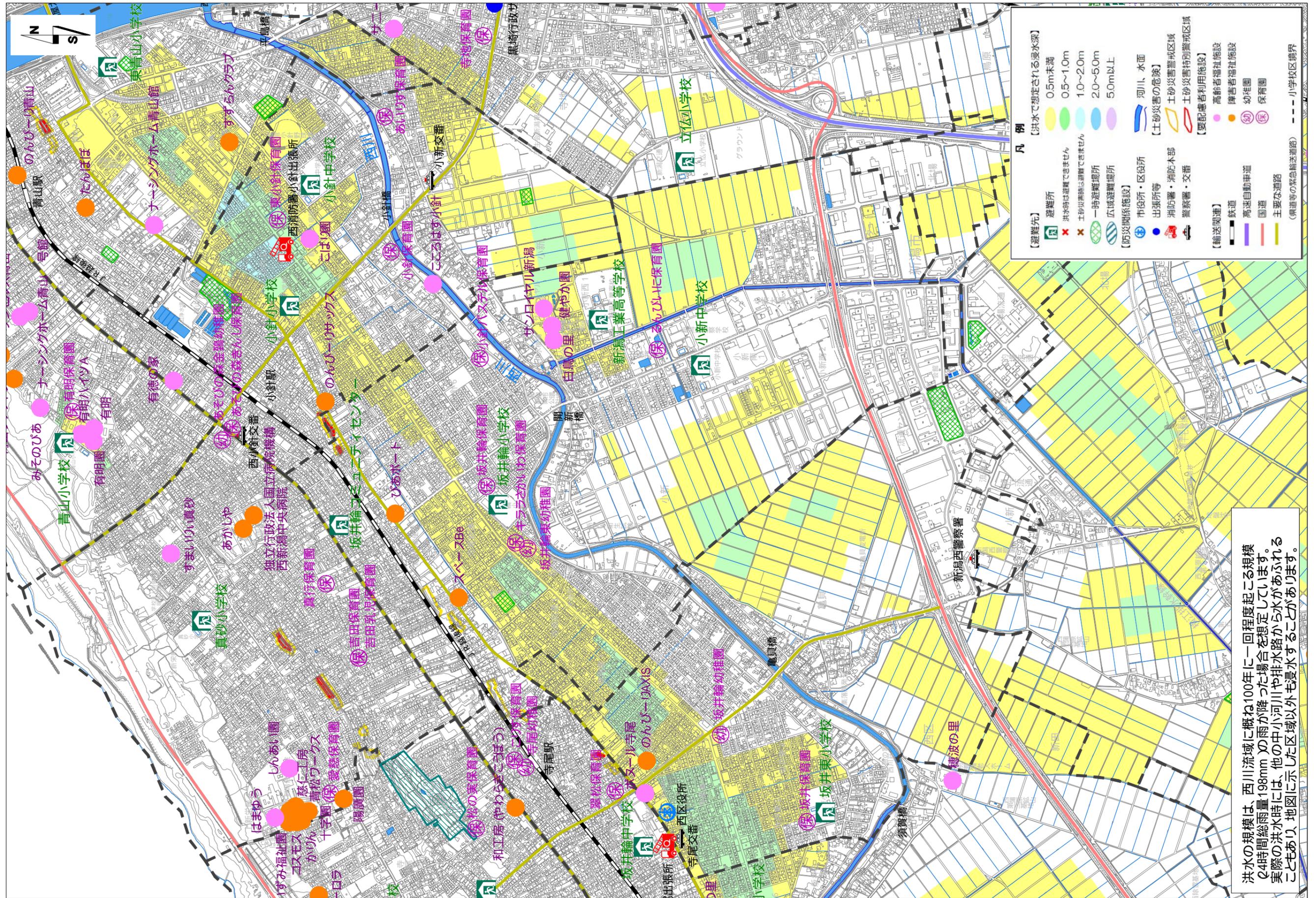
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量270mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中ノ口川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 中ノ口川浸水想定区域 (新潟県, 平成16年6月15日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（西川）

坂井輪小学校区

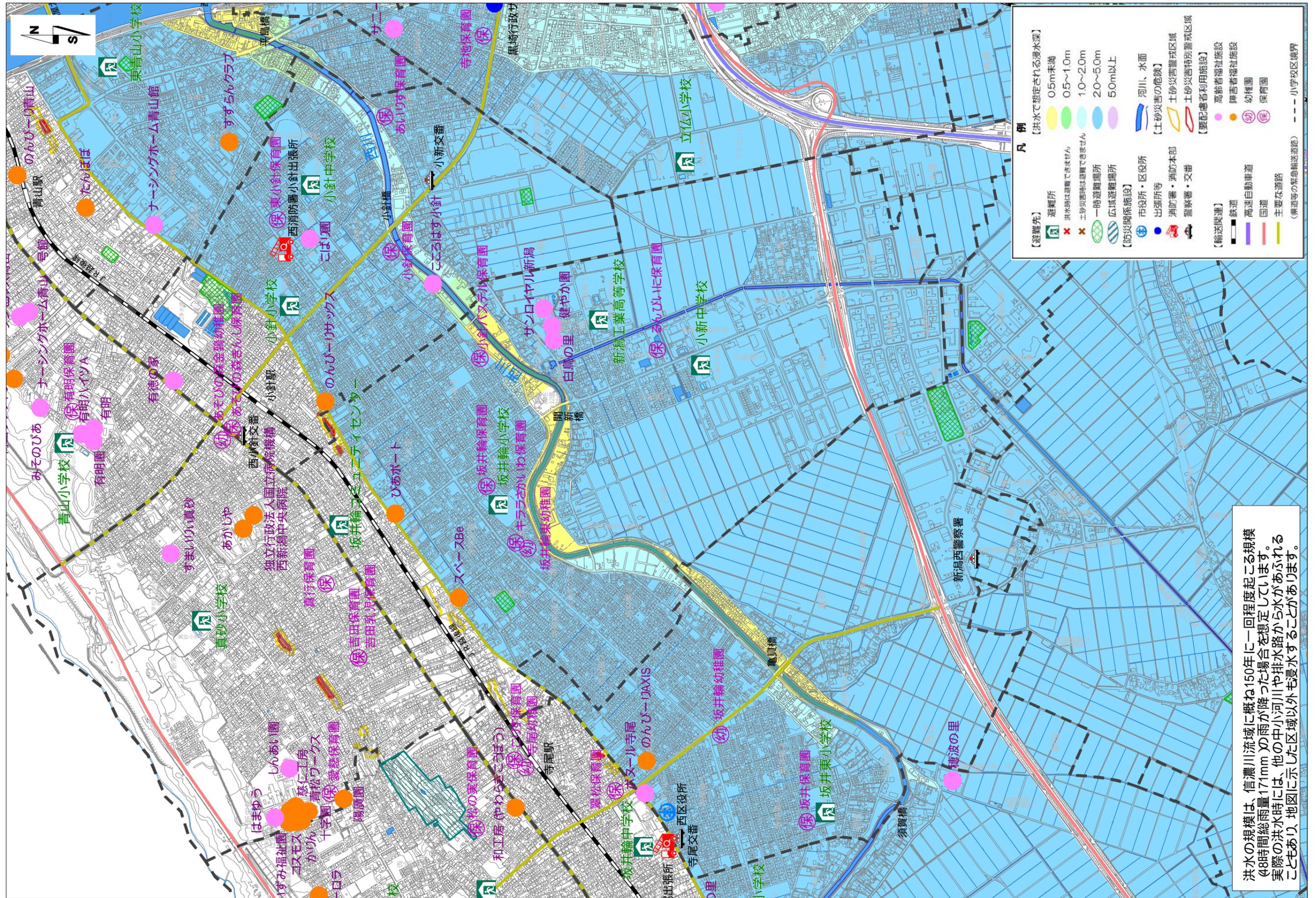


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
西川浸水想定区域 (新潟県,平成17年6月20日)

洪水の規模は、西川流域に概ね100年に一回程度起こる規模
24時間総雨量198mmの雨が降った場合を想定しています。
実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれる
こともあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

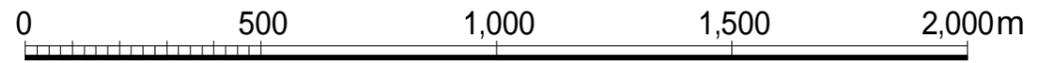
様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

坂井輪小学校区



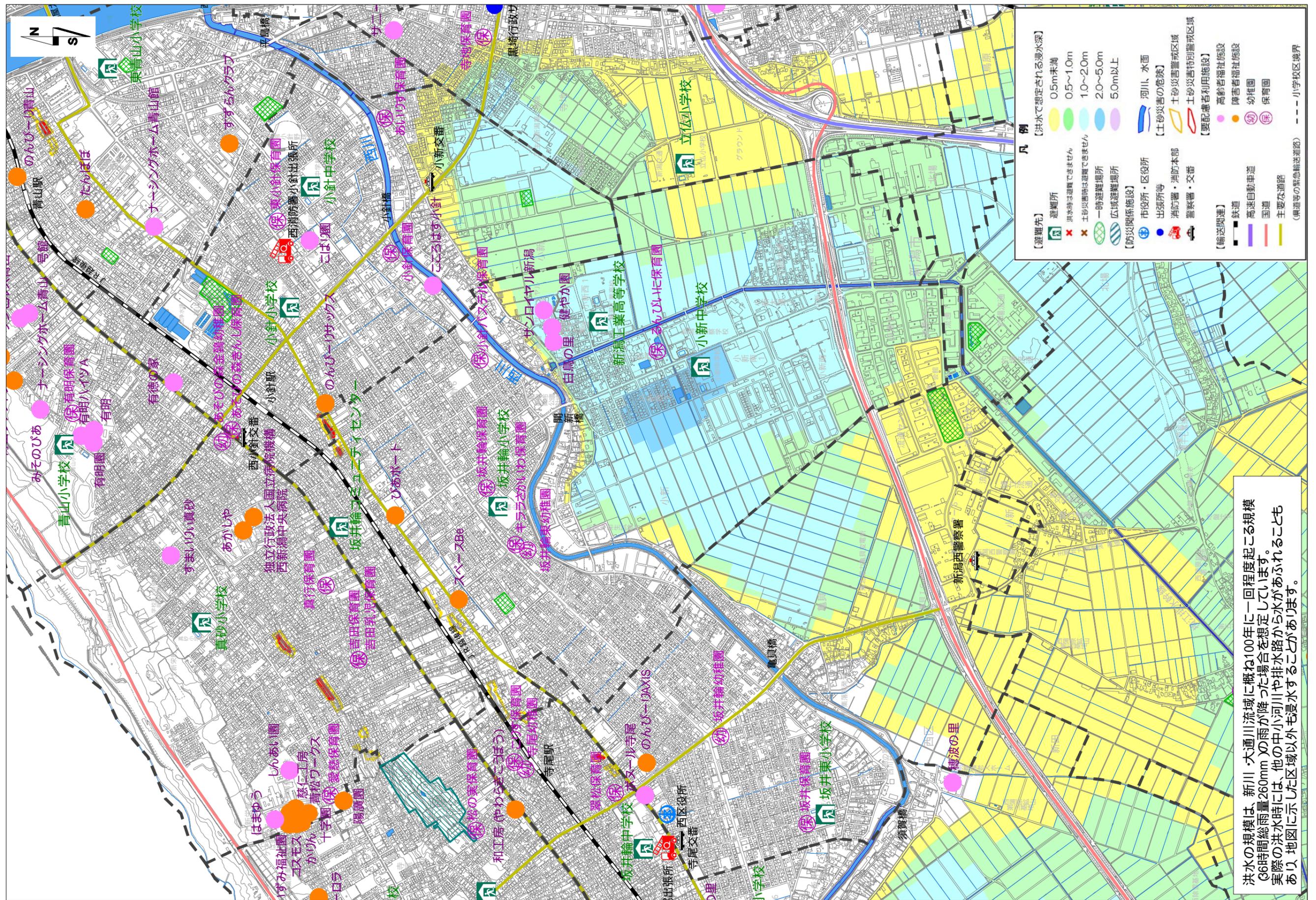
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量171mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
 大河津分水路浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-5 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路）

坂井輪小学校区



- 凡例**
- 【避難先】
 避難所 (洪水で想定される浸水深) 0.5m未満 (黄), 0.5~1.0m (緑), 1.0~2.0m (青), 2.0~5.0m (紫), 5.0m以上 (黒)
 洪水時は避難できません (赤×)
 土砂災害時は避難できません (黒×)
 一時避難場所 (緑斜線)
 広域避難場所 (青斜線)
- 【防災関係施設】
 市役所・区役所 (赤丸)
 出張所等 (赤点)
 消防署・消防本部 (赤点)
 警察署・交番 (赤点)
- 【輸送関連】
 鉄道 (黒線)
 高速自動車道 (赤線)
 国道 (赤線)
 主要な道路 (黒線)
 (県道等の緊急輸送道路)
- 【土砂災害の危険】
 土砂災害警戒区域 (赤斜線)
 土砂災害特別警戒区域 (黒斜線)
- 【要配慮者利用施設】
 高齢者福祉施設 (赤点)
 障害者福祉施設 (赤点)
 幼稚園 (赤点)
 保育園 (赤点)
- 河川、水面 (青線)
 小学校区境界 (黒点線)

洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模 (6時間総降雨量260mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年、平成25年、平成26年) 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域 (新潟県、平成20年2月26日)

